

森へ ー 狩りに 木の実とりに ー

人びとは森で狩りをし、木の実を取り、食料にしています。そして最近では、ダイズなどの栽培もしていたことがわかりました。

縄文時代にはオオツノジカなどの大型動物はいなくなり、森にはニホンジカやイノシシ・ノウサギなどがすんでいました。人びとはこれらの動物をとるために、弓矢を使い狩りをしました。狩りは数人でまとまっておこなったようです。イヌも連れて行ったようです。

矢の先には黒曜石などで作るとがった石鏃がつけられました。また、落とし穴などをつくり、そこに獲物を追い込んでとることもありました。

秋には森の木々がいっせいに実を落とします。人びとは木の実をひろいに出かけ、次の秋までの一年分の食料になる木の実を、大量にたくわえました。

川では、網を使って魚をとりました。釈迦堂遺跡や上石田遺跡では、うきやおもりがみつかっています。県外では釣り針もみつかっています。

海からは遠い山梨県、ですが縄文のムラからは海でとれる魚や貝もみつかっています。これらは、山や川を越えてこの地に運び込まれたものだと考えられます。

このほか、山菜、きのこなども食べていました。



落とし穴
八ヶ岳のすそ野、北杜市清里バイパス第1遺跡では、長さ2m、幅1m、深さ1mほどの落とし穴がまとまって見つかりました。



石鏃 釈迦堂遺跡(笛吹市・甲州市)

縄文のムラから見つかった骨と貝

- シカ・イノシシ・ノウサギ・ニホンザル・カワウソ・タヌキ・キツネ(石之坪遺跡)
- イヌ(釈迦堂遺跡) ●カエル・鳥類(清水端遺跡) ●ハマグリ(釈迦堂遺跡)
- 貝製飾り・コイ(花鳥山遺跡) ●タイ(百々・上八田遺跡)

そのほかテン・ツキノワグマもみつかっています。これらの動物は、縄文時代から人びとの身近にいたことがわかります。



縄文人が食べていた動物や植物の例



ムラから見つかった木の実(トチ)
三宮地遺跡(韮崎市)



うき
釈迦堂遺跡(笛吹市・甲州市)



石のおもり
釈迦堂遺跡(笛吹市・甲州市)